巻頭言

挑 ing

徳島大学運動機能外科学　教授　**西　良　浩　一**

就任５年目となりました。教室は同門会の諸先輩方の協力のもと益々発展していること日々実感しております。まずは，皆様方に日頃の援助に対し厚く御礼申し上げます。

タイトルの「挑」ですが，内閣総理大臣が挙げた「本年の漢字」です。私も，徳島大学の本年の漢字として，「挑」を挙げさせていただきます。徳島県には大学病院は唯一つです。私が以前勤務していた神奈川県には，５大学プラス帝京大学溝口病院がありました。東京都には，さらに多くの大学病院があります。徳島県をはじめ，四国の運動器医療を支えるためには，徳島県で唯一の存在である徳島大学整形外科教室が同門会と一丸となり，挑み続ける使命があるのです。そこで，挑 ing とさせていただきました。

本年の教室と同門で，一番大きい「挑」は，吉野川医療センターによる寄附講座開講でした。同門会副会長の三上浩副院長に，2017年の新年早々相談しました。その後，三上先生が中心となり，橋本病院長をはじめスタッフの方々のご支援で実現した講座です。別の項で詳細は報告しますが，吉野川医療センターと連携し，徳島県の西地区の運動器医療の要となる講座です。名称は地域運動器・スポーツ医学講座としました。米津准教授を中心にこれからの西部地区での活躍が期待されます。おかげさまで，整形外科教室は学内一の一大勢力となりました。

教室も松浦副科長（特任教授）と酒井医局長（准教授）を中心に抜群のチームワークで「挑」でおります。教室のアクティビティーで最も重要なのは英文

論文数です。4年連続，年間の英文論文数は50本以上をキープしております。本年のファーストオーサー賞は12編の論文執筆した殿谷講師でした。米国HSS留学からの帰国後，足の外科外来のチーフとして，臨床・研究・論文に活躍しております。第二位は山下先生の7編でした。帰国後の大活躍がさらに期待されます。これら若手の台頭にベテランも大変刺激を受けており，いい流れで教室内が切磋琢磨しております。

手術件数も順調に伸び，初めて年間800症例を超える手術を行いました。いずれも難易度の高い手術ばかりであり，現在の充実したスタッフを裏付けています。病棟医長の後東講師＆高田講師，そして後藤由佳病棟看護師長，手術部の皆様のご尽力によります。国際的には，毎年2名の留学生を輩出しております。現在，カナダ・バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学病理学教室に腫瘍班リーダー・西庄講師を，米国・アイオワ大学子供病院側彎症センターに脊椎班・山下先生を派遣しております。一年の予定で帰国します。来年は3名留学します。関節班の和田先生と脊椎班の手束先生がそれぞれ，コペンハーゲンとシカゴに留学が内定しております。また，小児整形を希望する木下先生が米国アイオワ大学子供病院ポンセティ内反足センターに留学します。教室員全員，国際化に向かって「挑」でおります。

さて，私自身の「挑」は，世界初の新しい手術術式開発でした。4年前神奈川県より，糖尿病ナンバーワンの徳島県にもどりました。徳島県には，全身麻酔をできれば避けてほしい全身状態の悪い症例が多い印象がありました。そこで私の徳島での使命として「局所麻酔で高齢者の腰痛治療をする」を掲げました。

REVIEW

A new concept of transforaminal ventral facetectomy including simultaneous decompression of foraminal and lateral recess stenosis : Technical considerations in a fresh cadaver model and a literature review

Koichi Sairyo[1], Kosaku Higashino[1], Kazuta Yamashita[1], Fumio Hayashi[1], Keizo Wada[1], Toshinori Sakai[1], Yoichiro Takata[1], Fumitake Tezuka[1], Masatoshi Morimoto[1], Tomoya Terai[2], Takashi Chikawa[3], Hiroshi Yonezu[1], Akihiro Nagamachi[1], and Yoshihiro Fukui[4]

[1]*Department of Orthopedics, Tokuhshima University,* [2]*Department of Orthopedic Surgery, Tokushima Prefecture Naruto Hospital,* [3]*Department of Orthopedic Surgery, Tokushima Municipal Hospital,* [4]*Department of Anatomy, Tokushima University*

教授就任後約３年を要しましたが，2016年５月に fresh cadaver を使用し手技を完成させました。臨床応用は2017年２月より開始しました。局所麻酔で経皮的内視鏡を使用して，高齢者の foraminal stenosis と lateral recess stenosis を除圧する手技を確立いたしました。日本発国内唯一の手技であります。今後，全身状態の悪い高齢者狭窄症の方々が全国から徳島大学に押しよせることと，考えております。この新しい術式は現在，徳島大学を代表するプロジェクトの一つとして採用されております。

2018年が始まります。同門会の皆様にとり，ますます繁栄の年となるよう祈念いたしております。本年も，教室・同門，一心同体での活動，よろしくお願い申し上げます。